

JT東日本大震災復興支援

「ひと」と、未来へ。

2

011年の東日本大震災から10年。

私たちJTは、復興へ向けた

長く険しい道のりを歩む、

たくさんのひとたちの応援をつづけてきました。

テーマは、「『ひと』と、未来へ。」

「ひと」と「ひと」だけでなく、

「ひと」と「農」、「ひと」と「まち」をつないでいく。

そんな場づくりのお手伝いを通し、

東北の復興を目指して取り組んできました。

「ひと」と「ひと」 つながり支援

震災後の生活中で、人とのつながりや、コミュニティの大切さが、あらためて見直されています。復興の原動力とも言えるコミュニティを支えるため、私たちJTは、地元NPOの支援をはじめとしたさまざまな活動を応援してきました。



「ひと」と「農」 なりわい支援

日本の農業をずっと支えてきた東北。たばこもまた農作物であり、農業は、私たちJTの原点でもあります。私たちJTは、多様な文化的資産を持つ日本の農業と向き合い、農業分野における価値創造を目指した貢献を行ってきました。



「ひと」と「まち」 にぎわい支援

東北は、創造的復興を掲げ、新たな魅力づくりを進めてきました。街人が集まれば、賑わいが生まれ、街の活気につながっていく。私たちJTは、そんな場を応援することで、これからの中北地域の魅力づくりに貢献してきました。



2011-2021 東北の復興を目指し 取り組んできた、10年の歩み。

「つながり」「なりわい」「にぎわい」の3つの領域を主軸に、私たちJTが2011年より続けてきた復興支援施策の歩みをまとめてみました。未来へつながるこれまでの取り組み。さまざまな支援の輪を、これからも広げていきます。



つながり

2013年-2021年



【第1-2期】
助成先：118件
助成額：約4.43億円
【第3期】
支援額：約9,600万円

2011年-2012年



JTボランティアーズ

従業員のボランティアを募り、復旧・復興支援に取り組みました。2011年から、東日本大震災の被災地復興支援活動として、2012年までの2年間全14回にわたり、300名ほどの社員が被災地へ向かい復興活動を行いました。

NPO応援プロジェクト

東日本大震災現地NPO応援基金(特定助成)への寄付を通じて、特に甚大な被害を受けた岩手県・宮城県・福島県を拠点に活動する民間の非営利組織を支援。2013年から3年間は第1期として「コミュニティの再生・復興支援」を目的に、2017年からは第2期として「コミュニティの自立を促す支援」を目的に助成を行ってきました。2019年は、被災地の自立や被災地で活動を行う団体のネットワーク化と育成を通じて、東日本大震災での経験を後世に語り継ぎ、防災・減災という未来につなぐ活動である「震災伝承」事業を支援しました。



なりわい

2012年-



たかたのゆめ

JTが開発・保有していた品種「いわた13号」を、岩手県陸前高田市の復興支援を目的として同市に寄贈したオリジナルのブランド米です。2012年に公募によりブランド名が決定し、2013年から作付けが始まりました。2014年は150トンの目標収量に対し、260トンの収穫を達成。市内スーパーでの販売や地元学校給食での提供など、多くの販路で販売されました。JTグループでは、陸前高田市および農家関係者が自立的に地域ブランド育成に取り組めるよう、体制構築のサポートも実施してきました。



活動回数：52回
参加人数：6,909人

2014年-2018年



JT応援プロジェクト

岩手県・宮城県・福島県の地域社会の復興・再生・活性化に貢献したいとの想いから、2014年から2018年までの5年間、東日本大震災復興支援「JT応援プロジェクト」に取り組んできました。年2回～4回行われる将棋イベントやバレーボール教室、落語会を通じ、地元の方々と出演者が触れ合い笑顔あふれるひとときを提供。東北3県各地域の活性化を企図し、積極的に取り組んできました。

2014年-2016年

福島藝術

福島県内各地域との協働による、森林文化をテーマとしたアートプログラム「福島藝術計画×Art Support Tohoku Tokyo2014『森のはこ舟アートプロジェクト』」を2014年～2016年まで支援してきました。森をテーマとしたアートによる福島の未来と希望を発信。森林文化から新しい福島のイメージの創造。そんな、地域文化を再確認するきっかけづくりを通して、新たな福島のイメージを創造し、未来へ希望を発信すること目的に活動してきました。



にぎわい



2016年-

福島フェス@六本木

「福島の魅力」を再認識するとともに、今まで知らなかった「新たな福島の魅力」を再発見し、「観光地としての福島」にもっと興味を持ってもらいたい……。そんな想いで企画、開催されている福島フェスに、2016年から協賛してきました。ブランド野菜のマルシェや伝統工芸品の紹介などを通じて、福島の文化を六本木ヒルズアリーナに再現。首都圏で活躍する福島県出身者と福島の魅力を伝えたい福島応援者が集い、福島の活気・魅力・県民の想いを皆で共有し、「復興の象徴」として元気な福島を全国へ発信できるイベントを支援してきました。

ユナフェス×福島フェス FUKUSHIMA CITY BLOCK PARTY 2020 2020年

福島をホームに活動しているプロサッカーチーム“福島ユナイテッドFC”が、福島市の中心市街地活性化を目的としてスタートした「ユナフェス」。2020年に、JTが支援している「福島フェス」とタッグを組み福島市でイベントを開催。大型ビジョンでの福島ユナイテッドFCのパブリックビューイング、ゲストアーティストのライブ、福島の子どもたちのダンスなどが行われるステージイベントに加え、福島の魅力が揃ったフードパーク、マルシェなど、多くの来場者に「福島の魅力」を楽しんでいただきました。



2021年

SONG OF THE EARTH 3II -FUKUSHIMA 2021

「SONG OF THE EARTH 3II-FUKUSHIMA 2021」では、「悲しみから喜びへ」をテーマとした福島の子どもたちの夢を描いた大仏あげや、3月10日・11日の夜にキャンドルを灯し、追悼と未来への祈りを行うキャンドルナイトイベントなどを開催。震災から10年の節目を迎える2021年、「福島、その先の環境へ」を共通テーマに、復興支援とこれからの未来を語り合うシンポジウムを環境省と共に開催するなど、企業や行政、立場を超えてさまざまな方々と話し合い、日本中、そして世界へと発信するイベントを支援しました。

RockCorps 2014年-

「RockCorps supported by JT」へ協賛を続けてきました。“4時間のボランティア”に参加することで特別なライブイベントへ参加できる仕組みによって、音楽の力を通じてボランティア活動を呼びかけ、人々と地域コミュニティとの関わり合いを促してきました。2014～2016年は福島県にて開催し、2017～2018年はボランティア文化のさらなる発展を目指し幕張メッセにてライブイベントを開催。10～40代と幅広い年代の方々にご参加いただき、5年間で延べ約20,000人以上のボランティアを動員し、被災地の復興および地域活性化に貢献してきました。2019年は長期的課題を抱える福島への支援と位置づけ、再び福島県でライブイベントを開催。

2017年-



LIGHT UP NIPPON

「LIGHT UP NIPPON」は2011年より、「東北を、日本を、花火で元気に」をキーメッセージとして、毎年8月11日に鎮魂と復興の祈りを込めた花火を全国一斉に打ち上げています。JTは2017年から支援を開始し、2019年は過去最多の15都道県で34,228発もの花火が打ち上りました。地元のお祭りの復活や街の活性化など、被災地の方々が顔を上げ前に進むきっかけとなり、人々のかけがえのない“ひととき”と未来がより豊かなものとなるよう、地域の人々と協働しながら、復興の応援を続けてきました。



2021年



PARK LIFE 2021

新しい形のマーケットフェス「PARK LIFE 2021」を福島県福島市のあづま総合運動公園にて開催。自然あふれる素晴らしいロケーションの中、「衣・食・住・さまざまなこだわりを詰め込んだマーケットやアーティストのライブなど、何気なく過ごす日常にちょっとした彩りを与えてくれるこのイベントを支援しました。





2021年 →

減災、防災



段ボールジオラマ防災授業

2021年よりスタートした、段ボールジオラマキットを活用する防災教育プログラム。自分たちが住む土地の地形や過去起きた災害の教訓、災害リスクを学び、自分の命は自分で守ること(自助)を身に付けます。宮城県、福島県、岩手県の住民の方々と一緒に、住み慣れた場所を今までとは違った視点で俯瞰し、地域の防災のあり方を考えることで、地域防災力を向上。加えて、地域コミュニティの連携・活性化、次世代へ伝承していくことで、今後起きるかもしれない災害時の減災を目指しています。

「ひと」の「とき」といっしょに
これまでも、これからも。

復

興はまだ道半ばでもあります、

今後は東日本大震災の経験を後世に語り継ぎ、
「防災」「減災」という未来につなぐ支援活動を
全国のさまざまな地域に広げていきます。

これまでも、これからも。

私たちは、「ひと」の「とき」といっしょに歩みながら、
未来を想いつづけていきます。